

四たび「多職種協働」について

多職種協働については、発音は同じキョウドウでも「協同」と「協働」は違います。

協同は互いに協力し合って互いに同意して行われることですが、協働は更に出来ることは境界を設けず互いに手を出し合って互いが主体的に行動することが伴わなければなりません。

2018FIFA ワールドカップは僅差ですが決勝トーナメントに出場することになりました。

サッカーは、以心伝心・啐啄同時、阿吽の呼吸、がなければ成り立たないスポーツですが、これが協働です。

(サッカーのパスは互いに瞬時に体で感じて以心伝心がなければ良いパスは出せません。啐啄同時は禅修業の弟子と師の関係で言われる言葉で啐は鳥の雛が生まれるとき殻の中から雛が殻をつつく行為、啄はそれに合わせて親鳥が外から殻をつつき割る補助行為で絶妙な互いのタイミングがあって初めて実効が生まれるという意)

従って、直接担当者が不在時でも一時的にはカバーできるような各人の心構えが必要ですし、話し合いの3原則が守れなければなりません。たとえ1年目の新人でも自分の意見はしっかり言わなければなりませんし、たとえ10年のベテランでも新人の言うことはしっかり聞いてやらなければなりません。そして仕事上の正解は必ずしも一つではありませんし、ベテランに向かって意見を言えないというのも駄目ですし、指導するのはリーダーの役目だから私は言わないと他人事のような姿勢もいけません。意見を出し合った上で決まらない時に決めるのがリーダーの役割です。決まれば自分の意見とは違っても協働しなければなりません。

赤信号みんなで渡れば怖くないでもいけません。上下分け隔てなくリーダーであろうがなかろうが互いに注意し合う姿勢が大事です。悪いことはしっかり言って伝えてあげることが必要です。一時の情に負けて言わないで本人の気づきを奪ってしまわないように互いに心掛ける必要もあります。何を言われてもめげない、或いはムカッとなっても6秒間待つアンガーマネジメントの姿勢も大事です。

サッカーでは負けた時には周りのサポーターが言いたい放題個人攻撃も含めて平然と行いますが、私たちの老健の介護の職場では究極の多職種協働を目指していますので個人攻撃は致しません。責任はそのチーム全員に在ります。だからこそ問題の再発がないように互いにレベルアップができるように、虚心坦懐にしっかりと互いの話し合い・注意のし合いが必要なのです。

全職員が自分に対して、自信を持って、心の余裕を持ってプロ意識を持ってお仕事に従事致しましょう。そうすれば利用者の方々にとっても、必ず良い介護になるでしょう。結果は後から付いてきます。

老人保健施設一羊館の理念

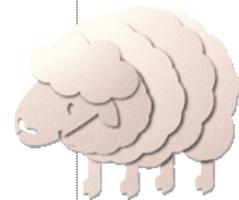
利用者の方々すべてに尊厳・安心・満足を！

一羊館の行動指針

私たちは、保健・医療・福祉の架け橋のプロに徹します。

私たちは、利用者のQOL・職員のQOL・健全経営の3立を目指します。

私たちは、質向上のために日々の小さな工夫を忘れません。



話し合いの3原則：

- ①相手の意見は決して否定しないでしっかり聞きます。
- ②自分の意見はしっかり言う。ポジティブ表現で言います。
- ③正解は一つではないことを自覚して自制します。